

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000688		
法人名	社会福祉法人 栄和福祉会		
事業所名	グループホームたのうらそう		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字田浦町822-3		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果市町村受理日	平成26年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成26年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年4月にグループホームたのうらそうを開設し、平成22年4月にグループホームたのうらそうⅡを増設しました。現在18名の方が利用されています。地元の方の利用者が多く、顔見知りの方や、馴染みのある風景の中で生活をされているため、安心感のある落ち着いた生活を送ってられます。ご家族の面会も多く、保育所からの訪問や町内の学校からの実習生の受け入れを行っており、地域に開かれた施設であります。最近では民生委員(運営推進委員)様主催のオペラコンサートやご家族様の知人による、余興ボランティアの訪問があり、いつもと違った雰囲気を楽しんでいただきました。特別養護老人ホームに併設しているため、法人全体で職員教育や指導に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームは、旧田浦役場や催し物が開かれるグラウンド・保育園・団地等を臨む緑一杯の高台に、母体法人施設と隣接して建っている。入居者の思いを最優先に考え、自宅にいるような環境づくりに努めており、居室・食堂・くつろぎやリハビリのコーナーなどに三々五々と集まる入居者の姿から、穏やかでゆったりとした時間の流れが伺われた。・地域との繋がりを大切に、買い物や外出等は、1人ひとりの希望に沿いながら、日常的に又、計画的に支援が行われている。・管理者もスタッフも、「利用者本位の介護」を目指し、法人内・事業所内研修出席や地域等の研修に自主的に臨む姿勢があり、今後の認知症介護の向上に期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	処遇の方針と理念を、毎朝朝礼の時間に全員で唱和している。作業重視の業務に偏りがちであったため、コミュニケーションの時間を意図的に作り、利用者とのかかわりを増やしている。	本年度は、ホーム理念と社会福祉における介護実践者としての「処遇」に重きをおいている。具体的な内容は、事業計画に示され、実践の一つとして「意図的なコミュニケーション」の時間が創られ、利用者・職員が共に楽しみを分かち合う場が持たれている。又、「気付き」を大切にしたい、思いに沿う支援が継続されている。	ホームと社会福祉法人の理念は、事務所内・事務所入り口・食堂の壁・トイレに掲示され、唱和とともにいつでも確認できる配慮が感じられ、理念の実現に向けた介護実践の向上に期待が寄せられる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所が近くにあり、園児たちの踊りの発表会や芋ほりなど毎年行っている。地元のビュースポット(つつじ、桜、ホテル、アジサイ、紅葉)も多く、外出の機会となっている。面会者は家族だけでなく近所の方や民生員の方の面会も多い。	地域の生活者として、日常的な買物や行事等の外出支援を実施している。地域の保育園児との交流や高校生の研修受け入れが定着化し、民生委員や知人等の面会者も多く、地域にホームの存在が認識されている事が伺われる。自治会への加入はしていないが、地域の特性に考慮した無理強いない地域連携への配慮が伺えた。尚、法人主催の敬老会には、たくさんの地域住民が参加し、共に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの講習、キャラバンメイト講習を受講している。新人職員は順次受講予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	芦北町役場、地域包括支援センター、地区会長、民生委員、家族代表、利用者、職員で構成されている。他施設の情報や取り組み方、ご家族からの意見を参考にしている。また、研修会やイベントなどの情報を得ている。	2カ月に一回の運営推進会議では、ホームの状況や事業実践報告と運営事業予定が具体的に示され、活発な意見交換と、情報収集と共有の場となっている。外部評価結果への意見や、他事業所と地域の具体的な情報は、ホームでの介護サービス向上に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者の方は運営推進会議に毎回参加していただいております。利用者の状況や人数、年齢、介護度等のデータを伝えています。普段から連絡もとっているため、相談しやすい。	市担当者とは、運営推進会議の他、日頃から「何でも聞いて情報をもらおう」姿勢で連携を取り、質問等には調べて返事がもらえる関係が築かれている。公的な回答・指導・助言の他にも、利用者が味と季節を楽しめるように調べてくれた情報から、石焼き芋屋さんのホームへの来訪に繋がるなど、密な交流がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で事故防止・身体拘束廃止委員会を設置し、毎月会議を行っている。やむを得ない場合の身体拘束は必ず家族の同意を得て開始し、記録を行っている。玄関は夜間以外は開錠しており、外に出られる際は職員が付き添っている。	本年度は改めて「言葉の拘束について」を掲げ、禁止語録集を用いたり、「無視」にならないケアに努めている。尚、全ての居室は掃出しサッシ戸になっているが、無断で外に出る利用者は過去になく、玄関からの出入りには、職員がさりげなく付き添うなど、入居生活の安心度の高さが伺われた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を職員に配布し、各自が理解し意識をもって虐待が起こらないよう介護を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、グループホームに成年後見人制度を利用されている方がいるので、身近なものとして考えているが、きちんとした制度の内容について職員は勉強の必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、利用者及びご家族が理解できるよう十分に説明を行っている。改訂や追加の際は、文書または電話、面会時などに説明をしてご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見用紙を設置しており、ケアプラン発送時にも用紙を入れて送付している。返却されたものは、公開できるものは玄関に置き誰でも見ることができる。面会時にも積極的にかわり、ご意見をお聞きした際はすぐに対応する。	家族会などの組織化はないが、日頃から面会者が多く、「直接話し合うと必ず意見がもらえる」と情報を得る機会としている。意見・要望は管理者に報告され即対応し、公表可能なものは玄関に掲示し、ケアにも活かされている。家族への近況報告時にご意見伺い用紙を同封し、意見を聞き取る努力が図られ、家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、直接、主任や管理者に相談している。必要時はその都度話し合いの場を設けている。	職員専用の意見箱やメールなどで、意見を聞き取る手段が設けられているが、利用はなく、主任が意見を聞き取る窓口になっている事が多い。会議などで職員の意見・提案が検討され、年間行事・各委員会の具体的な実践や、全居室のテーブル購入・祭り屋台造り・利用者と一緒に外出場所の下見・申し送りを徹底する方法など、多様に反映・実施されている。「職員の情報を大切にする」職場環境であることが伺えた。	法人から、職員の体調管理の一端として、スポーツドリンクや飴玉が用意され、「頑張ろう」という職員意識の高揚となっている事が感じられた。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は業務管理シートを持ちて年間、毎月の目標を設定し、業務に取り組んでいる。それに対する自己評価、上司評価を毎月行い、最終的には賞与の査定に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務基準書(チェックシート)により自己評価、上司評価を行い、個々の業務の確認を行っている。毎月の法人内研修に参加し、研修の場、発表の場を経て自己の向上に努めている。新人職員には研修計画を立てて指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	芦北、水俣地区での研修通知があれば積極的に参加するよう職員に働きかけ、自主研修として各職員は参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接はケアマネージャー、主任が出向き、面接を丁寧に行うことでご利用者自身がどのような生活をしたいかを伺い、ケアプランに反映している。入所時にはユニット職員で情報を共有し、不安なく生活できるよう体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時や入所契約時にご家族の思いを伺い、ご本人の希望とともにプランに反映している。連絡体制を整え、何度も調整しながら、利用者を受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族で介護をされていた方は、ご利用者と離れた生活になることに不安を持たれることがあるので、いつでも面会に来やすいよう声掛けを行う。また、医療面での不安感には、往診や訪問看護があることを伝える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活上の家事(洗濯物干し、たたみ、食器洗い)や畑作業、野菜の収穫、日常会話等一緒に行うことで顔なじみの関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員、ご家族それぞれの役割を考えながら、ご利用者を中心とした支援を行い、よりよい生活のためにはどうしたらよいか、面会時や連絡時に一緒に考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法事や墓参り等、ご家族から依頼があった際は送迎を行っている。自宅で生活していた時のように、ご家族送迎で馴染みの美容院や歯医者に行かれる。近所の方、親せきの方の面会も多い。	入居前の情報やケアプランをもとに、一人ひとりの背景に沿って、家に居た時と同じような家族や地域との関係性の継続を大切にしている。法事・墓参り、馴染みの理美容室への外出等、安心してホームでの生活が送れるよう支援しており、利用者・家族に喜ばれている。又、居室には接待用のテーブル・椅子がそれぞれに用意され、面会などが途切れ無いう、面会者を大切にする配慮がなされていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどの方が共有スペースにて過ごされている。利用者同士でもお世話をしあったり、わからないことを教えあったりする姿がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所される場合、入院や同法人内の特養に移られる場合があるので、必要な情報を提供したり、連絡を取り合うことができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者からの要望に合わせて、個別外出で買い物に行ったり、髪染をしたり、嗜好品をたしなむ方もおられる。把握が難しい場合は、ご家族にも相談し、好みを聞いている。	あらゆる場面で、「気付き」を大切に、利用者の思いや意向の把握に努めている。外に出て手を合わせる入居者の様子から、亡き夫の月命日の墓参りの実現に繋がった事例もある。又、居室は入居者の趣味に合わせて飾り物や家族の写真等を置き、面会者に配慮した設えの工夫も見られ、一人ひとりの思いを大切に生活への支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から暮らしの様子や情報を伺い、入所前に利用されていたサービス提供事業所に情報を得て、事前情報(アセスメント)やケアプラン等に反映し、職員一同把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の状態を、食事面、排泄面、整容更衣面、入浴面、健康面、運動面、心理社会面の分野に分けてアプローチし、現状に合わせた介護計画を立案している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には6か月ごとに介護計画を見直しているが、状態の変化やご本人・ご家族の希望などがあつた際はその都度モニタリングを行い、介護計画を変更している。	担当者とケアマネージャーを中心に、日頃の情報をもとに職員全員でアセスメント・モニタリングを行い、ケアプランの共有化が図られている。月毎のモニタリングは文章化し整理され、アセスメント用紙などと一緒に綴じられている。これらは月毎の家族への近況報告時に活かされており、ケアプランへの理解・信頼に繋がっている事が伺われた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとの一日の様子を、日勤帯、準夜帯、深夜帯に分けて記録を行っている。変化や気づきは特記事項や申し送りに記録し、経過を観察して月ごとの評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の様々な要望に対し、事業所として責任をもって対応できるよう体制を整えた上で、できるだけ柔軟に対応している。情報を共有することで安定した対応ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅と同じ地域で生活している方が多く、たまに民生委員の方が面会に来られることがあるが、地域資源との関係が薄れているのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回、主治医に往診を依頼している。体調不良時や緊急時にも医師の往診ができています。病院受診の際に家族の付き添いが困難な場合は職員が行っている。	ホーム近くの主治医による定期的・必要時の往診が可能で、利用者・家族と職員の安心となっている。主治医の変更は紹介状などで円滑に行われ、不安のない医療支援への配慮が伺えた。受診時の付き添いは、家族の要望があれば職員が付き添い、又、受診結果は、食事などの体調管理に活かされている。インスリン自己注射も実施されていて、「〇〇様インスリンチェック」の台帳が準備されており、自己管理への支援が図られていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に看護師がいないため、かかりつけ医の訪問看護師と医師に直接連絡を取りながら、指示を仰ぎ、必要時には訪問により点滴や処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、主治医からの紹介状と、グループホームからの情報を提供し、連絡を取り合っている。また電話連絡の際の担当者を伝えておき、スムーズな連絡ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りを行っていないため、ご本人の意思を尊重しながら事業所としてできる範囲のことを本人とご家族に説明し、方向を検討する。退所の場合は医療機関や施設を探すお手伝いを行っている。	現在、看護師不在で看取りは行っていないが、入所時に家族と話し合いを持ち、重症化・終末期への方向性を共有化している。入居後は、主治医との連携のもと異常の早期発見に努めて、入居者の一人ひとりの要望に沿った対応が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会や経験のある職員を中心に、緊急時の対応について、職員には年に1～2回、新人職員には採用時に指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を5月に実施し、歩行の場合、車いすの場合、移動手段がない場合の訓練を行った。消火器の設置場所を確認し、居室には防災頭巾とヘルメットを完備している。	各居室は掃出しのサッシ戸、専門職の手による備え付けタンスの壁への固定、居室内入口にはヘルメットと防災頭巾のセットが掛けられる等、様々な災害に備える準備が見られた。隣接した法人施設との協力体制、地域の1次、2次、3次避難場所への避難経路の周知、近くの団地に住む職員等地域の協力を得る努力が図られている。又、高台にある広い敷地を、海からの災害をも想定した避難場所として、地域住民に支援する予定等の努力も見られる。非常時に戸惑わない協力が得られるように、地元の消防団によるホーム内外の状況把握をしてもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	画一的な対応を行うのではなく、ご利用者個人に合わせた声掛けと対応を行っている。ご主人が毎日面会に来られる方もおられるので居室でゆっくり過ごしていただいている。	家族の一員として「ふつうに」接するケアが実践され、食後の歯磨き、トイレへの誘導、パジャマへの着替えなど、一人ひとりの生活歴や、生活リズムに考慮したさりげない支援が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな要望や決定ごとであっても本人の意思をその都度確認している。認知症のため、要望や決定したことを覚えておられないことがあるので、その都度柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度生活のリズムを整える支援と安全面を確保しながら、居室で過ごしたい方は居室でゆっくり過ごしていただき、余暇活動としてカラオケをされたり、大正琴をされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店に家族と行かれたり、白髪を気にされる方にはグループホームで染髪を行っている。季節に合った衣類を選んでいただき、行事や外出の際はよそ行きの服を身に着けたりメイクをすることで気分が変わる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を作りでは植え付けや収穫を一緒に行う。食事作りの行事では野菜の皮むき、刻みなど自分達で手を掛けた物は残さず食べられる。1日と15日は赤飯と赤酒で、月の区切りを感じていただいている。	基本的に献立と調理は母体法人施設で行い、食事形態と配膳はホームで実施している。食卓には、匙・フォーク付き匙・箸等が置かれ、様々な食器に形態や量の違う食事が盛られている。牛乳の用意や、食事摂取量確認後には栄養強化食品が準備されるなど、1人ひとりの栄養管理への配慮が伺われた。1日と15日の赤飯と赤酒、畑の収穫物での料理は、季節を感じる配慮となり、入居者に喜ばれている。又、イベント食や、らっきょう・梅干し・梅酒作り等は、全員で行い、一緒に楽しむ機会となっている。食事中には、あちこちから「こらなんな」「うまかー」の声があり、一緒に食事を味わう様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士によってバランスの良い食事を提供している。肉嫌いの方、腎臓病食の方、糖尿病の方、摂取量の少ない方など様々な食事状態に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に声掛けや洗面所誘導により、全員口腔ケアが実施できている。介助が必要な方には介助を行い、できる方にはご自分で行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意の無い方は本人の様子を見ながら定時の誘導を行い、トイレでの排泄を促している。入所時にリハビリパンツを使用されていた方も布パンツと尿取りパットで失禁なく過ごされている。	その人に合わせたトイレでの排泄支援があり、トイレには利用者毎の小物入れに吸収量の異なるパット類が用意され、必要な時にすぐ対応できるようになっている。又、夜間の排泄は、オムツ利用はなく、必要時にポータブルトイレが用いられ、昼夜のリズムが確立されている事も伺われた。人目の少ない風通しの良い場所に干されたポータブルトイレや、日光の下の掃除用具は、清潔への配慮が徹底している事が伺い知れた。尚、パット類は一括購入され、安価で家族に提供され喜ばれると共に、職員のコスト意識の向上ともなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10:00の水分補給時に牛乳(コーヒー牛乳・ココア等)を提供しており、15:00にはオリゴ糖入りのフルーツミックスジュースを毎日提供している。処方薬の下剤も使いながら排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	Iには普通型の大浴槽、IIには座位昇降機付の浴槽を設置しており、身体の状態に合わせて対応できる。個浴にて一人ずつ入浴を行い、本人の希望や外出、散髪によって入浴日や時間を選ぶことができる。	毎日、午前、マンツーマンでの入浴を基本としているが、希望に合わせて夕方や髪染後など、自由に選択できる支援となっている。2ユニットの機能が違う浴槽により、入居者の身体状態に合わせて入浴法が選択されている。土地柄、ゆず類の差し入れが多く、ゆず湯を楽しむ機会が増えたと喜ばれている。尚、洗濯物は、ホーム横の広い透明の屋根・壁のある干し場で干され、入居者によりたたまれ仕分けされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる前にほとんどの方がパジャマに更衣されるため介助を行っている。室温や照明の調整、テレビ、ラジオ等、それぞれの方に合わせて快適に過ごせるよう個別に対応している。眠れない方はソファで職員と一緒に過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用中の薬名、効能、注意点を把握し、職員は理解している。(平成26年2月グループホーム内研修) また、インスリン注射を行っている方もおられ、取り扱いに注意し、低血糖などの症状にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	焼酎を好まれる方がおられ、体調を見ながら提供している(ご家族、医師の許可済み)。カラオケの好きな方がおられるので、日曜日にはカラオケを行っている。畑作業や屋内での軽作業、大正琴などの趣味活動の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームの敷地内の庭や畑へ散歩に出ることは日常的に行っており、職員が付き添っている。選挙や寄合、法事に行かれる際にはご家族や親せきの方と調整しながら外出の支援を行っている。役割だと感じられ張り切って出かけておられる。	日常的な買物、理容室などの外出支援の他に、選挙や土地調査の立会いなど、家族の中の役割を果たすための支援も積極的に行われている。本年度の事業計画にも、要望に沿う実現可能な外出支援が挙げられている。ホーム専用の大型ワゴン車は、随時や計画的な外出に対応され、利用者、家族に喜ばれ、職員のやりがいにもつながっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる範囲内で手元に少額のお金を持っておられる方がおられる。同販売機でジュースを買ったり、買い物に行かれた際の支払い、孫様の面会時にお小遣いを渡される時に使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時などに、お礼の電話をかけ、本人様にも電話口に出ている。懐かしい声を聞いて喜ばれる様子が見られる。耳の遠い方は伝言を伝え、字の書けない方は代筆を行い、メッセージを伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所やトイレが混乱する前に職員が誘導や声掛けを行っている。季節感のある壁飾りを作成したり、季節の花をテーブルに飾っている。	2つのユニットは、互いの広い食堂をすだれや敷物で仕切り、必要に応じて多目的ホールとして活用できる設計となっている。食堂、テレビのある大型の腰かけ炬燵コーナー、運動器具コーナー、浴室前や随所におかれたソファや椅子などには、入居者のくつろぐ姿があり、居室やトイレなども動きやすい動線造りとなっている。随所にあるきれいな花々や、入居者の写真や作品が飾られた清潔感のある明るい雰囲気の中で、入居者と職員がランプを楽しんだり、ベッド上でゆったりとマッサージを受ける入居者も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースではそれぞれが思い思いの場所で過ごされている。二つのユニットは大広間としてつながっているが、状況に応じて仕切ることができる。個別のスペースが必要な時はついたてを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の間取りは同じであるため、全室違う柄のカーテンを使用している。備品はベッドとタンス1棹のみで、その他の家具類はできるだけ自宅で使い慣れたものを持ち込んでもらうように伝えている。	部屋毎に雰囲気の違うカーテンが掛けられ、入居者と家族、職員と共に、それぞれにその人らしい個性の感じられる居室となっている。夫の面会が毎日ある人・孫の面会が多い人・碁を楽しむ人・大正琴を趣味とする人・好きな色合いのカバーで家具等を飾っている人・洋服が選びやすいようにしている人など、住み心地の良さへの工夫が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	Iは手すりが設置してないため、歩行に不安がある方は押し車を使用している。ナースコールや起き上がりセンサーを使い分け、必要な介助を行っている。自分の部屋や食堂の座り位置には、名前ではなく出身小字名を表示し覚えていただいている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000688		
法人名	社会福祉法人 栄和福祉会		
事業所名	グループホームたのうらそう		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字田浦町822-3		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果市町村受理日	平成26年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成26年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年4月にグループホームたのうらそうを開設し、平成22年4月にグループホームたのうらそうⅡを増設しました。現在18名の方が利用されています。地元の方の利用者が多く、顔見知りの方や、馴染みのある風景の中で生活をされているため、安心感のある落ち着いた生活を送ってられます。ご家族の面会も多く、保育所からの訪問や町内の学校からの実習生の受け入れを行っており、地域に開かれた施設であります。最近では民生委員(運営推進委員)様主催のオペラコンサートやご家族様の知人による、余興ボランティアの訪問があり、いつもと違った雰囲気を楽しんでいただきました。特別養護老人ホームに併設しているため、法人全体で職員教育や指導に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	処遇の方針と理念を、毎朝朝礼の時間に全員で唱和している。作業重視の業務に偏りがちであったため、コミュニケーションの時間を意図的に作り、利用者とのかかわりを増やしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所が近くにあり、園児たちの踊りの発表会や芋ほりなど毎年行っている。地元のビュースポット(つつじ、桜、ホタル、アジサイ、紅葉)も多く、外出の機会となっている。面会者は家族だけでなく近所の方や民生員の方の面会も多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの講習、キャラバンメイト講習を受講している。新人職員は順次受講予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	芦北町役場、地域包括支援センター、地区会長、民生委員、家族代表、利用者、職員で構成されている。他施設の情報や取り組み方、ご家族からの意見を参考にしている。また、研修会やイベントなどの情報を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者の方は運営推進会議に毎回参加していただいております。利用者の状況や人数、年齢、介護度等のデータを伝えている。普段から連絡もとっているため、相談しやすい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で事故防止・身体拘束廃止委員会を設置し、毎月会議を行っている。やむを得ない場合の身体拘束は必ず家族の同意を得て開始し、記録を行っている。玄関は夜間以外は開錠しており、外に出られる際は職員が付き添っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を職員に配布し、各自が理解し意識をもって虐待が起こらないよう介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、グループホームⅡに成年後見人制度を利用されている方がおられ、連絡等の全ては成年後見人を通して行っている。制度の内容について職員は勉強の必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、利用者及びご家族が理解できるよう十分に説明を行っている。改訂や追加の際は、文書または電話、面会時などに説明をしてご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見用紙を設置しており、ケアプラン発送時にも用紙を入れて送付している。返却されたものは、公開できるものは玄関に置き誰でも見ることができる。面会時にも積極的にかかわり、ご意見をお聞きした際はすぐに対応する。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、直接、主任や管理者に相談している。必要時はその都度話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は業務管理シートを持ちて年間、毎月の目標を設定し、業務に取り組んでいる。それに対する自己評価、上司評価を毎月行い、最終的には賞与の査定に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務基準書(チェックシート)により自己評価、上司評価を行い、個々の業務の確認を行っている。毎月の法人内研修に参加し、研修の場、発表の場を経て自己の向上に努めている。新人職員には研修計画を立てて指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	芦北、水俣地区での研修通知があれば積極的に参加するよう職員に働きかけ、自主研修として各職員は参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接はケアマネージャー、主任が出向き、面接を丁寧に行うことでご利用者自身がどのような生活をしたいかを伺い、ケアプランに反映している。入所時にはユニット職員で情報を共有し、不安なく生活できるよう体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時や入所契約時にご家族の思いを伺い、ご本人の希望とともにプランに反映している。連絡体制を整え、何度も調整しながら、利用者を受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族で介護をされていた方は、ご利用者と離れた生活になることに不安を持たれることがあるので、いつでも面会に来やすいよう声掛けを行う。また、医療面での不安感には、往診や訪問看護があることを伝える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活上の家事(洗濯たみ、食器洗い)や畑作業、野菜の収穫、日常会話等一緒に行うことで顔なじみの関係ができています。Ⅱは食器洗いや洗濯物干しと取り込みに積極的に参加される方がおられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員、ご家族それぞれの役割を考えながら、ご利用者を中心とした支援を行い、よりよい生活のためにはどうしたらよいか、面会時や連絡時に一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法事や墓参り等、ご家族から依頼があった際は送迎を行っている。自宅で生活していた時のように、ご家族送迎で馴染みの美容院や歯医者に行かれる。近所の方、親せきの方の面会も多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごすのが好きな方もおられるが、日中はほとんどの方が共有スペースにて過ごされている。利用者同士でもお世話をしあったり、わからないことを教えあったりする姿がみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所される場合、入院や同法人内の特養に移られる場合があるので、必要な情報を提供したり、連絡を取り合うことができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者からの要望に合わせて、個別外出で買い物などを行っている。意思の疎通が難しいは、ご家族にも相談し、好みや性格、暮らしぶりなどを聞き、支援に生かしている。(洋裁が好き、花柄が好き、パレーが好き、カラオケが好き等。)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から暮らしの様子や情報を伺い、入所前に利用されていたサービス提供事業所に情報を得て、事前情報(アセスメント)やケアプラン等に反映し、職員一同把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の状態を、食事面、排泄面、整容更衣面、入浴面、健康面、運動面、心理社会面の分野に分けてアプローチし、現状に合わせた介護計画を立案している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には6か月ごとに介護計画を見直しているが、状態の変化やご本人・ご家族の希望などがあつた際はその都度モニタリングを行い、介護計画を変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとの一日の様子を、日勤帯、準夜帯、深夜帯に分けて記録を行っている。変化や気づきは特記事項や申し送りに記録して情報を共有し、経過を観察して月ごとの評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の様々な要望に対し、事業所として責任をもって対応できるよう体制を整えた上で、できるだけ柔軟に対応している。情報を共有することで安定した対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅と同じ地域で生活している方が多く、たまに民生委員の方が面会に来られることがあるが、地域資源との関係が薄れているのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回、主治医に往診を依頼している。体調不良時や緊急時にも医師の往診ができています。病院受診の際に家族の付き添いが困難な場合は職員が行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に看護師がいないため、かかりつけ医の訪問看護師と医師に直接連絡を取りながら、指示を仰ぎ、必要時には訪問により点滴や処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、主治医からの紹介状と、グループホームからの情報を提供し、連絡を取り合っている。また電話連絡の際の担当者を伝えておき、スムーズな連絡ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りを行っていないため、ご本人の意思を尊重しながら事業所としてできる範囲のことを本人とご家族に説明し、方向を検討する。退所の場合は医療機関や施設を探すお手伝いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会や経験のある職員を中心に、緊急時の対応について、職員には年に1～2回、新人職員には採用時に指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を5月に実施し、歩行の場合、車いすの場合、移動手段がない場合の訓練を行った。消火器の設置場所を確認し、居室には防災頭巾とヘルメットを完備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	画一的な対応を行うのではなく、ご利用者個人に合わせた声掛けと対応を行っている。面会の際も居室でゆっくり過ごしていただいている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな要望や決定ごとであっても本人の意思をその都度確認している。認知症のため、要望や決定したことを覚えておられないことがあるので、その都度柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度生活のリズムを整える支援と安全面を確保しながら、自由に生活していただいている。居室で過ごされる方で、毎週一回外部から囲碁をしに来られており趣味活動を継続している。ランプや花札、将棋、カラオケなども週に1~2回程行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1~2か月に一回、地元の床屋に来訪してもらい、散髪を行ったり、家族と行きつけの美容院に行かれる方もおられる。衣類は季節に合った好きな選んでいただき、行事や外出の際はよそ行きの服を身に着けたり、メイクをす勧め、気分を変えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を作りでは植え付けや収穫を一緒に行う。食事作りの行事では野菜の皮むき、刻みなど自分達で手を掛けた物は残さず食べられる。1日と15日は赤飯と赤酒で、月の区切りを感じていただく。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士によってバランスの良い食事を提供している。食物アレルギーの方、生ものが食べられない方、苦手な食べ物がある方、摂取量の少ない方など様々な食事状態に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に声掛けや洗面所誘導により、全員口腔ケアが実施できている。介助が必要な方には介助を行い、できる方にはご自分で行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意の無い方は本人の様子を見ながら定時の誘導を行い、トイレでの排泄を促している。入所時にリハビリパンツを使用されていた方も布パンツと尿取りパットで失禁なく過ごされている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10:00の水分補給時に牛乳(コーヒー牛乳・ココア等)を提供しており、15:00にはオリゴ糖入りのフルーツミックスジュースを毎日提供している。処方薬の下剤も使いながら排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	Iには普通型の大浴槽、IIには座位昇降機付の浴槽を設置しており、身体の状態に合わせて対応できる。個浴にて一人ずつ入浴を行い、本人の希望や外出、散髪によって入浴日や時間を選ぶことができる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる前にほとんどの方がパジャマに更衣されるため介助を行っている。室温や照明の調整、テレビ、ラジオ等、それぞれの方に合わせて快適に過ごせるよう個別に対応している。眠れない方はソファで職員と一緒に過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用中の薬名、効能、注意点を把握し、職員は理解している。(平成26年2月グループホーム内研修) また、インスリン注射を行っている方もおられ、取り扱いに注意し、低血糖などの症状にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	焼酎を好まれる方がおられ、体調を見ながら提供している(ご家族、医師の許可済み)。カラオケの好きな方がおられるので、日曜日にはカラオケを行っている。畑作業や屋内での軽作業、大正琴などの趣味活動の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームの敷地内の庭や畑へ散歩に出ることは日常的に行っており、職員が付き添っている。選挙や法事に行かれる際にはご家族や親せきの方と調整しながら外出の支援を行っている。近所付き合い、親戚付き合いが継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる範囲内で手元に少額のお金を持っておられる方がおられる。自動販売機でジュースを買ったり、買い物に行かれた際の支払い、孫様の面会時にお小遣いを渡される時に使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	奥様の声を聞きたい方、家族に連絡を取りたい方等、事務所から電話をかけ、本人様にも電話口に出ている。耳の遠い方は伝言を伝え、字の書けない方は代筆を行い、メッセージを伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所やトイレが混乱する前に職員が誘導や声掛けを行っている。季節感のある壁飾りを作成したり、季節の花をテーブルに飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースではそれぞれが思い思いの場所で過ごされている。二つのユニットは大広間としてつながっているが、状況に応じて仕切ることができる。個別のスペースが必要な時はついたてを活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の間取りは同じであるため、全室違う柄のカーテンを使用している。備品はベッドとタンス1棹のみで、その他の家具類はできるだけ自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	Ⅱは押し車や車椅子で介助の必要な方が多い。ナースコールや起き上がりセンサーを使い分け、必要な介助を行っている。居室の入り口には名前の代わりに顔写真と好きなものをかたどったプレートを表示して自分の部屋を覚えていただいている。		